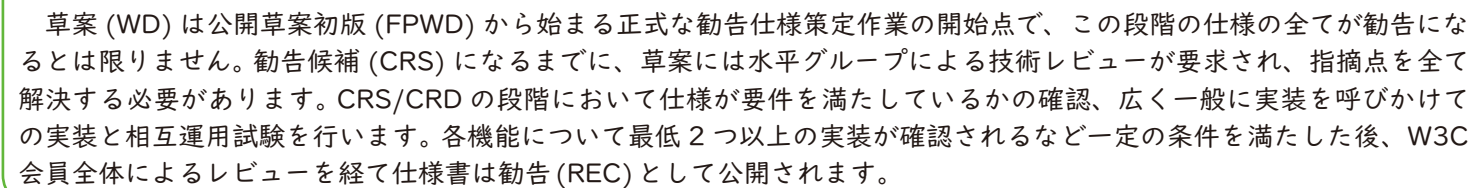


長年にわたり、W3C は進化する Web 技術やその活用に対応するため、漸進的に変化してきました。会員主導のコンソーシアムとして、W3C 会員が過半数を占める理事会 (BoD) により策定される運営と戦略的方向性の元、ガバナンスを全面に打ち出し、明確な報告、継続的かつ高い透明性を持つグローバル協力を基本に活動しています。W3C 会員による選挙で選出される、W3C 運営顧問である運営諮問委員会 (AB) と技術諮問委員会 (TAG) が設置されており、2 年任期でベンダ中立な参加が求められます。会員各組織代表が参加する W3C 会員各組織代表 (AC) 総会を年に 2 回行い、W3C 全体の運営について議論しています。この内の 1 回は、W3C 技術全般について議論する W3C 年次技術者総会 (TPAC) として開催されます。

W3C 技術文書には勧告仕様、技術的なアイデアや背景をまとめたグループノート、勧告仕様に紐づくリスト項目を登録するレジストリ、新たな技術仕様策定に向けた会員提案の分類があります。

勧告仕様の策定作業では、W3C プロセドキュメントに規定された各段階やレビュー要件を経ます。レビューには各領域の専門家が所属する水平グループによる技術的レビューや、会員全体によるレビューが設定され、また加えてリエゾン関係にある様々な標準化団体や、一般の開発者コミュニティに対してもレビューを依頼し、会員からの意見同様に対応しています。



Web技術全体へ指針を出しているTAGに加え、アクセシビリティ(a11y)、国際化(i18n)、セキュリティ、プライバシーの4領域について専門家により構成される水平グループがHRを行います。この活動はW3Cで開発されている仕様に限らず、関連分野で活動するWHATWGやIETFなどの標準化団体の仕様への参画も行っています。また、これらのグループは各分野においてWeb仕様開発者向け開発ガイドラインや仕様書の自己レビューチェックリスト、また一般向けの解説も提示しています。

セキュリティはプライバシーとともに fingerprinting の可能性のある技術領域を調査するとともに、AI などを含めた新技術が Web に与える影響についての文書の取りまとめを行っています。

